大人が絵本を
第43回　売れっこ絵本

司書・読書アドバイザー　安藤　宣子※
小児歯科医師　濱野　良彦※※
※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）
※※ 医療法人元気が湧く　理事ファウンダー

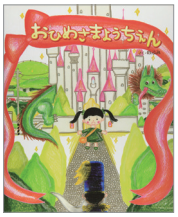
幼児のヒーロー、ヒロインはやっぱり！

幼児期の男の子を虜にするものは、なんといっても“戦隊もの”で、ビーム光線やキックで悪者を倒して、平和をもたらす正義の味方ウルトラマンや仮面ライダーは、世紀を超えて子どもたちのヒーローで居続けています。そんな子ども心をくすぐる戦隊がテーマの絵本『ぼく、仮面ライダーになる！』は、主人公のかんたろうが歴代の仮面ライダーに変身することで、日常ではまだ持ち得ていないパワーや心が宿って、まわりの人々を助けるお話で、もちろんのこと、等身大の男の子に大人気のシリーズです。

一方、同世代の女の子のあこがれは、何をおいても“お姫様”に勝るものはないところ、昨今お目見えしたディズニーの『ちいさなプリンセス』[1]の影響を大きく受けて、お姫様ブームはますます加速しています。ディズニーのプリンセスが絵本となって登場するより４年前の2009年に、シリーズ第１作が発行された『おひめさまようちえん』は、園児全員がふわふわドレスを着て園生活を送る幼稚園に入園したあんちゃんのストーリーで、しかし、お姫様らしからないおてんばぶりを披露し、この時期の女児たちの夢と現実のギャップをユーモラスに描いた絵本です。

男児と女児それぞれに大人気の『ぼく、仮面ライダーになる』と『おひめさまようちえん』を並べてみますと、その絵のタッチから、同じ作家の作品であることが一目瞭然で分かります。絵本作家の名前は「のぶみ」と、ひらがな３文字で、女性とも受け止められますが、本名は斎藤のぶみ氏、男性絵本作家です。

『ぼく、仮面ライダーになる！』
のぶみ 作（講談社）



『おひめさまようちえん』
のぶみ 作（えほんの杜）

いま売れっ子の絵本作家は、このお方！

1978年生まれののぶみ氏は、1999年に『ぼくとなべお』でデビューしてから今日まで、200冊以上の絵本を出版しています。そのうえ、近年の年間出版作品数はナンバーワンで、その多くがヒットしているという今、超級に売れっこの絵本作家なのです。

のぶみ氏の人気ぶりと仕事ぶりは、マスメディアにも目が止まり、2016年には「情熱大陸」（TBS系）で９か月の密着取材の模様が紹介されたり、NHKラジオ「すっぴん」や、「世界一受けたい授業」（日テレ系）にゲストとして登場したりして、絵本と縁のない層にも、その人物像や絵本作家という仕事、絵本業界の現状を知られることが多くなりました。

また、作家活動だけでなく、NHK「みいつけた！」の「おててえほん」のアニメを描いたり、同局「おかあさんといっしょ」の「おしりフリフリ」などの歌を作詞したり、はたまた福島県応援キャラクターを考案したりと、キャラクターデザインや作詞の方面でも引っ張りだこなのです。最近では、NHK Eテレで今年１月９日にスタートしたアニメ「うちのウッチョパス」の原作を手掛け、放送に先駆けた３日前に、同名の原作絵本を株式会社KADOKAWAより刊行するなど、話題に事欠きません。

このように飛ぶ鳥を落とす勢いののぶみ氏ですが、今年２月、また別の形で話題の人となりました。

手にするときは！
作家は、イクメン！

企画　濱野　良彦
構成　木須　信生※※※
※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ（福岡市）

「あたし、おかあさんだから」…どう受け止めますか？

動画配信サイト「Hulu」で２月１日に更新された新曲「あたしおかあさんだから」[2]が火種となって炎上騒動が起こりました。NHK「おかあさんといっしょ」で11代目歌のお兄さんを務めた、だいすけお兄さんが歌ったこの歌の作詞を手掛けたのがのぶみ氏でした。

母親になる前は、おしゃれして働いて、自分の好きなことだけをする生活を楽しんでいたけれど、母親になってからは、おしゃれもテレビも食事も子ども中心、眠くても５時に起きるし、新幹線の名前も覚えるのは、「あたしおかあさんだから」「あたしよりあなたのことばかり」と、子育て中の女性が、母親になる前の自分と、母親になってからの自分の生活の変化や気の持ちどころを、わが子に語りかけるような歌詞になっています。それが、「母親に我慢や自己犠牲を一方的に強いている」などの批判が相次ぐこととなりました[3]。

ネット上で数多くの批判を受けたのぶみ氏は、２月５日に自身のフェイスブックで、「これは元々、ママおつかれさま」の応援歌なんだ　泣いてる人もたくさんいた」と、母親たちへの取材を元にした歌詞だったと明かしました[4]。しかし、相次ぐ批判に、３日後には、今度はツイッターで「関係者やイヤな気もちにさせた方、本当に深くおわび申し上げます」と謝罪し、さらに、「僕が足りなかったのは 僕は、違った意図で書いているけど、違う受け取り方をした人に寄り添うことだったんだ。僕とあまりに違うからなかなかそれができなかった。理解していないと謝り方は変わるもんね」とコメントし「本当に僕がバカだったと思う。申し訳ありませんでした」と謝罪を重ねることとなりました[5]。

SNSの負「炎上」

ネットの発達していなかった時代なら、芸能界や政財界の出来事などは、ひと昔前で言う“井戸端会議”のコミュニケーションテーマとなって、そこかしこで多様な批判なり、共感なり、人それぞれの考え方をディスカッションして、ものの見方の違いを確認しながら、事件・事象をアウトプット、インプットしていました。それが、ソーシャルネットワークが発達するとどうでしょう。当事者を置きざりにしてSNS上で批判や中傷がヒートアップしたあげく、炎上を招くことも珍しいことではなくなりました。むしろ、投稿する側の素生が分からないことを逆手に、批判のほうが暴走する傾向にあるようです。昨年、今回と類似した論点でオムツ会社のCMが炎上したことは記憶に新しいところです。

「あたしおかあさんだから」の歌詞について、のぶみ氏が振り返っているように、人によって受け止め方は変わるでしょう。日刊スポーツ新聞の女性記者は、「母親になったことで独身時代からライフスタイルが変わっても、子どものために頑張ることを幸せに感じている女性の姿」が描かれていて、「全然嫌な気持ちにはならなかったどころか、むしろちょっと泣けた」とコメントしたような投稿もたくさんあります[6]。

自己犠牲を美化？献身的な母親像の押し付け？

この一件について、１歳10か月児を持つ当館ビブリオキッズママさんにインタビューしたところ、CMにしても歌にしても、どうして炎上騒ぎになる

のか理解できないと話します。「母親としての事実を表現しているだけのことで、ヒールを履かなくて楽チンだし、ネイルだって執着心ないし、でもビブリオママの中にもおしゃれなお母さんは、いつもおしゃれでいる。人それぞれのこと。犠牲的と表現する見方が理解できない」という子育て渦中のお母様の考え方もあるのです。

しかし、一方で子どもを優先して、自身の趣味を控えているお母様も確かにいます。こちらも1歳11か月児のお母様ですが、アイドルグループがデビューした当時からファンで、独身時代は毎回コンサートに行っていたけれど、出産してからはお預け状態で、それがやっと、1歳半になった男児を夫に託して、母親になって初めてのコンサートに行き、夜の街をはしごして、久しぶりの感覚を味わいました」と、イキイキとお話しして下さいました。そして、「夫の帰りが遅いのはしょっちゅうだから、たまには今回のように育児をしてもらいたい」とも、こぼしておられました。

間違ってはいませんか？ 問題点

今回の炎上騒動の論点となった「母親に我慢や自己犠牲を強いている」という育児環境の実態があるのなら、それは美化されるものではないし、ましてや空論の批判と炎上で終わらせるものでもなく、育児支援の方策が問題視されなくてはならないのではないでしょうか。「疲れた、息抜きしたい」とヘルプを求めているお母さんのSOSをキャッチして、手を差しのべる環境がどのくらい整っているのでしょうか。そういった意味では、オムツのCMとのぶみ氏は、この国の子育て環境のあり方に一石を投じているという見方もできます。だからこそ、国が、自治体が、企業が、地域が、そして父親がいかに方策を練り、改善していくかが今、本当に必要な課題のようです。

政府は「一億総活躍社会」を実現するための働き方改革の議論を進めていますが、その実現には子育てが重要な要素といえ、育児支援改革も推進されるときではないでしょうか。

1か月で10万部を売り上げる絵本作家に望むこと

のぶみ氏デビューから16年目の2015年に出版した『ママがおばけになっちゃった』は、1か月で10万部突破の売り上げを記録した“おばけ絵本”そのもので、この作品によってその名を轟かせました。

ママが死んでしまうところから始まる、なんともショッキングな絵本ですが、おばけになったママは元気で、前半は明るいシーンが続き、笑いも誘います。しかし、「ママの死」に反応して泣いてしまう子も実際にいて、この絵本でも賛否両論、物議を醸し出しました。子どもだからと、「死」を避けることはタブーですし、逆に「生きること」と「死ぬこと」の理解に、絵本の活用が定着した時代となりました。そこに、賛否あってしかりだと思います。

『ママがおばけになっちゃった』や、『ママのスマホになりたい』『このママにきーめた』などののぶみ作品にうかがえるのは、子ども向けというより大人へのメッセージ性が強いということです。「母と子の絆」がテーマになっていて、どちらかというと母親側に子どもとの関係をみつめてもらう育児絵本とも受け止められます。残念に思うのは、のぶみ氏自身が2人の子どもの父親で、イクメンでもあるのに、絵本では父親の視点がなく、「母性神話」の再生が見て取れることです。

『ママがおばけになっちゃった』
のぶみ 作（講談社）

子どもが夢中になる絵本を創り、母親層に共感を呼ぶ作品を創作するのぶみ氏ですので、自身と同じ

ビブリオベイビー Bibli Baby
連絡先　福岡市南区大橋 3-2-1 2F
絵本と図鑑の親子ライブラリー　ビブリオキッズ
TEL 092-557-3272　URL http://bibliokids.jp
E-mail
安藤：bibliokids.baby1@gmail.com
濱野：hamano@genkigawaku.com
木須：nobuokisu@gmail.com

ように育児をする父親や、父親の存在感の強い家族の物語を描くと、きっと等身大の親子に共感をよぶ作品が生まれるでしょうし、もしかしたら新しい父親像を提案する絵本も期待されます。

売れっ子作家 のぶみ氏の絵本の創り方

今でこそ売れっ子となったのぶみ氏ですが、デビュー作以降は全く売れず、鳴かず飛ばずの作家生活を送っていました。やっとの思いで売れたのは、デビュー８年目、新幹線が大好きな息子さんとの会話で生まれた『しんかんくん うちにくる』で、人気を博した結果シリーズ化され、その人気は現在も続いています。このヒットによって、身近な人を喜ばせたいという気もちがアイデアとなるようになりました[7)]。

『しんかんくん うちにくる』
のぶみ 作
（あかね書房）

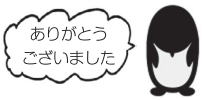
家庭での絵本読みは、上のお子様が赤ちゃんのときから「毎日、食事を食べるみたいな感じ」で行ってきたようです。自身の創作活動でも、ラフの段階で何度も読んで聞かせ、反応を一番参考にするのだそうです。そうして、新作の土台を描き終えたら各地の幼稚園へ行って、自ら読み聞かせを行い、子どもとお母さんの反応をリサーチします。その反応を持って、初めの下書きを直し、時にはバッサリ描き直し、そしてまた、別の場所で読み聞かせをして、リサーチと描き直しを20～30回繰り返し、子どもと母親に共感を呼ぶ作品創りを徹底している、研究と努力の絵本作家なのです[8)]。

「相手に寄り添う伝え方」大事です

累計売上53万部を超えた『ママがおばけになっちゃった』や数々の人気シリーズ絵本を続出しているのぶみ氏ですが、売れない時代を超えて絵本作家として成長を遂げても、知名度が上がっても、創作過程は一貫し続け、初心と同じ心構えとスタイルを持ち続けているところに、学びとるものがあります。

今回、騒動となった「あたし おかあさんだから」の作詞活動も、これまでと変わらないスタンスで取り組みましたが、世間の評価はいつもと異なるものでした。この一件からも、私たちは自己を振り返る機会をもらえたのではないかと思います。ものの受け取り方は人それぞれで、伝えることや表現することは難しいということです。私たち人間は、人と人とのつながりの中で生きています。家庭では家族と、職場では同業種、異業種スタッフと、そして、一番大事な患者様親子との間に、コミュニケーションと説明責任があります。

常に初心と同じ心構えを持ち、「受け取る方に寄り添う伝え方」を念頭に置いて、歯科診療や育児支援に従事していきたいものです。一人の絵本作家に、多様なものの見方と考え方の違いを捉える機会と、襟を正すきっかけをいただきました。



文献
1）キャサリン・ハプカ文，グレース・リー絵，老田 勝 訳：ディズニー ちいさなプリンセス，講談社，東京，2013.
2）だい！だい！だいすけおにいさん !!，動画配信サービス「Hulu」，HP https://www.happyon.jp/static/daidaidai-suke/
3）毎日新聞 統合デジタルセンター：元「うたのおにいさん」新曲 歌詞炎上「母親に我慢強いる」作詞ののぶみさんは「喜び、誇り描いた」，毎日新聞デジタル，2018/2/8 HP https://mainichi.jp
4）のぶみ Facebook：https://ja-jp.facebook.com/nobumi.eventnews/
5）絵本作家のぶみ Eテレアニメ放送中，https://twitter.com/nobumi
6）のぶみ氏歌詞炎上騒動「寂しい気持ち」，日刊スポーツ.com，2018/2/8 HP https://www.nikkansports.com
7）のぶみ：暴走族、絵本作家になる，ワニブックス，東京，2010, pp.142-223.
8）毎日放送：絵本作家・のぶみに密着，情熱大陸，2016/11/13 放送.